

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	食道癌の術前リンパ節転移診断におけるPET/CTの有用性に関する検討
Author(s)	辛島, 龍一
Citation	
Issue date	2015-03-09
Type	Thesis or Dissertation
URL	http://hdl.handle.net/2298/32270
Right	

辛島 龍一氏の学位論文審査の要旨

論文題目

食道癌の術前リンパ節転移診断における PET/CT の有用性に関する検討

(A study on the usefulness of PET / CT in the preoperative diagnosis of lymph node metastasis of esophageal cancer)

食道癌はリンパ節転移が予後と強く関連している。PET/CT 検査は食道癌診療において汎用されるようになったが、そのリンパ節診断精度の評価は必ずしも定まっていない。また、術前治療を受けた食道癌のリンパ節評価に関して PET/CT の有用性は明らかではない。本研究では食道癌の術前リンパ節転移診断における PET/CT の有効性を CT と比較し評価すること、さらに術前治療の有無が PET/CT のリンパ節診断に与える影響を検討することである。対象は食道癌 107 例で、67 例は手術のみを行い (SA 群)、40 例は術前に化学療法または化学放射線療法が行われた (PT 群)。PET/CT の診断については SUVmax、CT では最大径 10mm 以上のリンパ節を転移ありと診断した。転移の有無はそれぞれのリンパ節領域ごとに評価し、病理診断結果と PET/CT および CT の診断結果を対比して感度・特異度・陽性的中率 (PPV) を算出した。PET/CT は SA 群の診断において感度で CT に劣ったが、特異度においては CT より優れていた。また、PET/CT はとくに PT 群の診断において、陽性的中率で CT より優れていた。症例ごとの検討において、PET/CT は PT 群の診断で感度・特異度・PPV いずれも良好な結果を示した。SA 群の検討において、PET/CT で cN1 と判定された症例の平均転移リンパ節個数は 5 個以上で cN0 症例よりも有意に多く、予後不良な症例の拾い上げに有効であった。原発巣の SUVmax はリンパ節転移ありの群が転移なしの群よりも有意に高く、転移個数と原発巣の SUVmax には正の相関を認めた。

審査において画像評価の妥当性、患者振り分けのバイアスの可能性、原発巣の悪性度との関係、微小リンパ節転移の問題点について、画像診断結果と治療法の関係など多くの臨床的な質疑がなされたが、申請者からは概ね適切な回答が得られた。

本研究は治療の非常に難しい食道癌治療法決定において貴重な情報を提供するものであり、学位の授与に値すると判断した。

審査委員長 放射線診断学担当教授

